

令和4年度 坂井市立東十郷小学校 学校評価

項目	重点目標	回答者	アンケート項目	目標指数 1+2(%)	結果 1+2(%)	成果と課題	改善策・向上策
1 学習指導 「学ぶ子」	読書習慣 の定着	教職員	・読書	90	96	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は学校司書の先生がいるので、学級文庫の本が充実しており、教室内で本を読む環境が整っていた。また、国語等の教材に必要な本も、十分な数を準備してもらい、授業の中でも本を活用して学習する機会を多くもつことができた。 ・高学年は、タブレットで電子図書(お試し期間)を読む児童も多く、本に親しむ児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教室内の本の充実、教材としての本の準備を行い、児童が本に親しめる環境を整える。 ・図書委員会の活動(多読賞、読み聞かせ)を、引き続き行い、啓発していく。
		児童	・読書	90	98		
		保護者	・読書	90	55		
	授業内容の工夫と改善	教職員	・わかる授業	90	100	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで制限されていた、ペア学習やグループ学習が少しずつ行えるようになり、児童が自分の考えや意見を言う活動が増えてきた。 ・コロナやインフルエンザ等で欠席が多い時期もあり、オンライン授業も行ってきたが、授業理解できているか不安を感じる児童が増えたのではないかと考える。 ・聞き方に関しては、タブレット活用が進む中、画面を見ながら聞いている児童もいると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・坂井市学力調査の結果から、個別に対策プリントを作成できるので、一人一人にあった対策を準備し、児童の「わかった」を引き出せるようにする。 ・引き続き、授業や単元毎に振り返り活動を行い、児童が自己の成長を実感したり、学び合いや深め合いに活かしたりしていけるようにする。 ・話の聞き方に関しては、そのつど声かけをし、タブレット学習中は、聞くときはタブレットを閉じるように声かけをする。 ・郷の子テストを継続して行い、基礎基本の定着を高める。
			・意見や考え	90	100		
		児童	・授業理解	90	85		
			・話の聞き方	90	91		
		・自分の考え	90	88			
	保護者	・授業理解	90	91			
	家庭学習の習慣	児童	・家庭学習	90	88	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から出されている課題は、ほとんどの児童が提出できているが、それ以外のすすんで学習への取り組みが少ないと感じている児童がいると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの持ち帰りが増えるので、デジタルドリル等の学習を増やして、進んで学習に取り組み児童を増やしていく。 ・授業の中で、早く課題が終わった児童に進んで学習の方法を提示し、家庭でも取り組めるように声かけしていく。
保護者		・家庭学習	90	74			

令和4年度 坂井市立東十郷小学校 学校評価

項目	重点目標	回答者	アンケート項目	目標指数 1+2(%)	結果 1+2(%)	成果と課題	改善策・向上策			
2 生活指導 「素直な子」	「豊かな心」	あいさつ・正しい言葉づかい	教職員	・あいさつ	90	100	・学校の中では、おおむね元氣よくあいさつをすることができている。 ・家庭や、地域の方、見守り隊の方、来校者へのあいさつが不十分であると思われる。	・挨拶に関する指導を、朝礼や集会、各学級で繰り返し指導していく。 ・地区子ども会で見守り隊の方への挨拶や、地域の方への挨拶をするように指導する。 ・下校指導の時に、すれ違う大人にあいさつをするように促す。 ・高学年が手本となってあいさつをするように、意識を持たせる。 ・教職員が率先してあいさつをする。		
				・言葉遣い	90	100				
			児童	・あいさつ	90	96				
				・言葉使い	80	97				
			保護者	・あいさつ	90	81				
				・言葉使い	80	81				
		きまりを守り安全な生活	教職員	・楽しい学校生活	100	100			・清掃活動に一生懸命取り組むことができている。 ・ネットの約束や、スマートルールを守れていない児童が多く、目標を大きく下回った。	・情報モラル教育を学期ごとに行い、低学年のうちからSNSの使い方や情報モラルについての学習を行う機会を確保する。 ・スマートルールを見返す機会を増やす。例えば、学期はじめに行っている「にこいきチェック」の項目にスマートルールの項目を追加し、スマートルールへの意識をもたせる。 ・保護者向けに、ネットに関する講演会等を企画する。
				・廊下を走る	100	100				
			児童	・楽しい学校生活	100	95				
	・掃除			90	98					
	・きまりを守る			100	89					
	・廊下を走らない			90	94					
	保護者		・楽しい学校生活	100	97					
			・ネットの約束	90	74					
			・スマートルールを守る	80	68					
	いじめ未然防止	教職員	・いじめのない学校	100	100	・小さなトラブルはあるが、その都度、担任が両者の話を聞き、解決している。また、解決が難しい場合には、学年主任や生徒指導主事、管理職などでチームを作り解決を図っている。また、解決後も、保護者に連絡をして見守っている。 ・家庭で学校の話をする児童が少ない。	・成長段階において、学校の話をするかどうかは変わると考えられるので、質問の文言を変えてはどうか。 ↓ 「お子様は、困ったことがあったときに、家族に相談をしていますか。」			
			・人間関係に配慮	100	100					
		児童	・友達仲良く	100	97					
		保護者	・いじめ不登校	100	93					
			・学校の話をする	90	85					

令和4年度 坂井市立東十郷小学校 学校評価

項目	重点目標	回答者	アンケート項目	目標指数 1+2(%)	結果 1+2(%)	成果と課題	改善策・向上策
3 健康な生活 「元気な子」	体づくりの推進	教職員	・体力向上	100	100	・児童の数値は上がっているのは、コロナの制限解除によりプール学習などが始まり、少しずつ運動の機会が増えているためと思われる。	・天気の良い日は、外で遊ぶ機会を増やせるように外遊びを推奨していく。 ・いきいきタイムを再開するかは、また職員で検討していきたい。
		児童	・進んで運動	90	98		
		保護者	・体を動かす	90	78		
	健康的な生活習慣	教職員	・早寝早起き	100	100	・早寝・早起きについて、児童・教職員では昨年より数値が上がっているが、保護者では昨年より数値が下がっている。また児童と保護者の間も数値に差がある。保護者が早寝を促しても習いごと等で遅くなってしまう日や、高学年になると保護者の目の届かないところで遅くまで起きている児童がいるのかもしれない。 ・朝ごはんの数値は、昨年に引き続き高い。	・今年度は学校保健委員会を児童保健委員が主体となって生活リズムの課題を児童になげかけた。「にこいきチェック」にて生活リズムをチェックしているが、どこまで児童が正直に書いているかは分からないが、継続して指導していく必要はある。 ・感染症対策について、コロナが第5類に引き下げられることにもない、今後学校においてどのような対策をしていくか、全職員で検討していく必要がある。
			・食生活指導	100	100		
		児童	・早寝早起き	95	99		
			・朝ごはん	100	91		
		保護者	・早寝早起き	95	77		
			・朝ごはん	100	97		

令和4年度 坂井市立東十郷小学校 学校評価

項目	重点目標	回答者	アンケート項目	目標指数 1+2(%)	結果 1+2(%)	成果と課題	改善策・向上策			
4 開 か れ た 学 校 づ く り	教育 学 校 動 の 開 発 信 ・ 信 頼 さ れ る 学 校	教職員	・学校公開・行事	95	100	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観には約90%の保護者が来校している。コロナ禍のルールを守り、廊下から静かに参観できている。また、平日開催にも関わらず、運動会やマラソン大会等にはたくさんの保護者が来校した。 ・資源回収には、たくさんの保護者や地域の方々の協力を得ることができた。PTA行事に関しては、開催に関して賛否両論があり判断が難しい。 ・ホームページの閲覧数は今年度4万を越えている。ホームページを見るのが楽しみという保護者の声も多くなってきている。 ・ホームページは、校長の尽力により、1日も欠かさず更新ができている。保護者からの期待は年々高まっており、今後のことも考えていかななくてはならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍や働き方改革により、行事のあり方は随分変わってきたが、子供たちが主役で、子供たちのためにできる限りの工夫をしながら取り組んできたことは、保護者の理解を得られている。今後も継続したい。 ・PTA行事については、あくまでPTAが主体なので、学校で勝手に判断することなく、役員の方々との連絡・協議を疎かにしない。 ・本校のホームページは原型が8年前に作られたものであり、形式が古くなってきている。スマートフォン等にも対応しておらず、近いうちに刷新が必要となる。 			
			・情報発信	100	100					
		保護者	・学校行事参加	90	98					
			・情報発信	90	96					
		地域 人 材 の 活 用	教職員	・地域人材の活用	100			100	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、クラブ活動やおしゃべりルーム、人権教室、ひまわり教室、まち探検、野菜づくり等で、たくさんの地域の方々にご協力いただいた。また、来年度創立150周年を迎えるにあたり、4年生が地域の方から「かがしダンス」を習ったり、昔の学校の様子を聞いたりするなど、新しい地域資源の開発もできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の創立150周年記念事業に向けて、さらなる地域資源の開発が求められる。コミセンやまちづくり協議会の方と連携を密にしていきたい。
				保護者	・地域人材の活用			100		
	危 機 管 理	教職員	・登下校の安全	100	100	<ul style="list-style-type: none"> ・本校児童は、きちんと1列に並んで登下校ができており、高学年児童は、上級生としての責任をしっかりと果たしている。本年度は児童間のトラブルや保護者からの苦情がほとんどなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が朝の街頭に立つことは無くなったが、登下校の安全は、家庭・地域・学校が協力して守っていくものなので、任せきりにせず、見守り隊や育成委員の方からの意見や要望には真摯に対応していくようにしたい。 			
			児童	・安全な集団登校	90			90		
			保護者	・登下校の安全	100			91		